

令和7年度 山之口中学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立山之口中学校		校長名	黒葛原 武	
学級数	8	児童生徒数	165名	職員数	23名
教育目標	子どもが育つ学校 ~Learning workframe2030~				

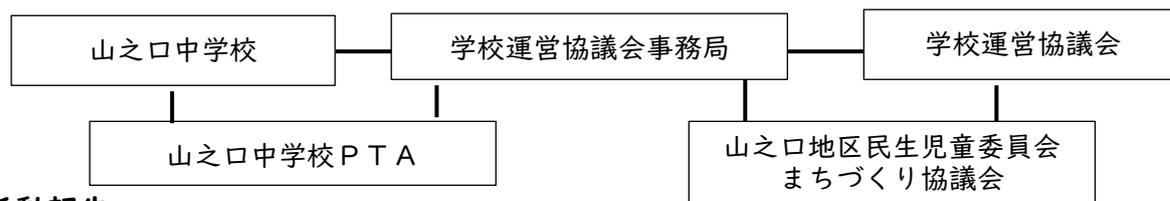
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員 (計7名)・事務局 (計4名)

学校運営協議会委員	No.	所属名(役職)	氏名	備考
	1	都城市議会議員	榎木 智幸	委員長
	2	花木地域公民館長	有川 俊一郎	
	3	上富吉地域公民館長	西久保 五十六	
	4	元主任児童委員	田邊 美喜子	
	5	主任児童委員	下西 礼子	
	6	(有)山之口造林経営者	尾上 秀樹	
	7	PTA 会長	小濱 真樹	

事務局	役職	氏名
	校長	黒葛原 武
	教頭	倉田 和也
	主幹教諭	古川 宏之
	事務副主幹	石黒 昇一郎

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月	・学校運営協議会委員選出
4月 9日	・入学式
5月19日	・体育大会参観
5月30日	・第1回学校運営協議会(委嘱状交付、概要説明、役員選出、学校経営方針及び年間計画説明、本年度の取組について)
7月25日	・地区小中学校4校合同学校運営協議会並びに第2回学校運営協議会(キャリア教育集会、教育課程の変更、学校分収林基金)
7月29日	・地域と学校の未来創造ミーティング
10月 2日	・文化発表会参観
10月10日	・第3回学校運営協議会(学校評価、校内の樹木整備、「ひなた場」講師事前研修会)
11月 6日	・キャリア教育集会「ひなた場」
12月 4日	・第4回学校運営協議会(学校の現状と課題、キャリア教育集会反省、協議「今後の学校と地域の連携のあり方について」)
2月 5日	・立志式参観
2月13日	・第5回学校運営協議会(学校評価 評価コメント・外部評定、次年度に向けて)
3月16日	・卒業式

4 今年度実施した「熟議」のテーマ(小中合同学校運営協議会を含む)

12月:「今後の学校と地域の連携のあり方について」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

11月6日(木)に、3年生を対象としたキャリア教育集会「ひなた場」を実施した。本年度第1回の学校運営協議会でキャリア教育集会の内容について検討したところ、「講演会より生徒が主体的に取り組める。」「参加した大人も、生徒の生の姿に接することができ、とても有意義だ。」といった意見が出され、全会一致で「ひなた場」の実施が決定した。実施にあたっては、学校が主体となり教頭がコーディネートし進めること、委員一人あたり2名、地域の方を講師として推薦すること、また、南九州大学の学生にも講師として参加を依頼することなどを決定した。

10月2日(木)の第3回学校運営協議会に、学校運営協議会委員の推薦する講師に対する事前研修会を実施した。委員及び講師からは、昨年度の反省を踏まえた改善点などが提案された。

当日は、3年生56名と講師22名でひなた場を実施した。生徒からは、「人生の先輩や地域の方々との交流を通じて学ぶことができた。」「将来や生き方への不安が軽減し、前向きな気持ちになった。」、講師の方々からは、「生徒の率直な声を聞くことができ地域の大人として将来が楽しみになった。」「自分の人生を振り返り、考えを深める良い経験になった。」といった感想が聞かれた。



【ひなた場の様子】

(2) 教育課程の改善(カリキュラム・マネジメント)

- 2学期以降の校時程の変更に関して、家庭での過ごし方の充実が重要であるという意見はあったが、生徒の下校時刻が配慮されているなどの理由から実施することとなった。
- 学校からの地域への情報発信に関して、コロナ禍以降、各地区への回覧板による学校だより回覧が停止しているという意見を受け、回覧を再開した。

(3) 地域貢献活動

○ 花配り活動(7月)

民生委員を務める学校運営協議会委員などの協力を得て、生徒の育てた鉢植えの花を地域の高齢者に届ける活動を行った。活動当日は、各地区担当の民生委員さんにもご同行いただきながら、高齢者宅を1軒1軒訪問し、花を渡すことができた。

○ 山之口ふれあい大運動会ボランティア(10月)

山之口まちづくり協議会が主催する地区運動会に50名以上の生徒が選手や役員ボランティアとして参加した。特に役員ボランティアは会場設営や場内アナウンス、選手の招集・誘導、景品配付など大会全般を支える中心的な役割を果たした。実行委員長を務めていた学校運営協議会委員からは、「中学生なしでは成功しなかった。」との言葉をいただいた。

6 学校運営協議会の成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 地域で中心的役割を果たす委員の意見を取り入れ、「地域の学校」の視点をもって学校経営を進めることができた。
- 学校運営協議会の協力により、キャリア教育集会の講師選定や花配り活動の安全な実施など、教育活動の充実につながった。
- 学校が地域にできることに加え、地域が学校にできることについても熟議し、地域と学校がよりWIN-WINな関係を築けるようにしていきたい。

7 次年度の方向性

- 学校運営協議会を通じて、学校と地域人材・組織が密接につながり、地域と学校がより連携した取組を推進する。
- 学校・地域それぞれの抱える課題についてさらに熟議を重ね、「地域の学校」の視点をもったカリキュラム・マネジメントにつなげる。